
Express5800/R32Ba シリーズモデル

ファームウェア更新ガイド

(iLO6: 1.64
iLO6 日本語パック:1.63.11)

[GZZ-032089-001 (更新ガイド)]
(第 1 版)

2025 年 3 月 第 1 版
© NEC Corporation 2025

目次

目次	2
1. 本書について	3
1.1. 本文中の記号について	3
1.2. 注意事項	3
2. 準備	4
3. 接続	5
4. 装置コンソール接続方法	6
4.1. iLO WEB インターフェース接続方法	6
4.2. リモートコンソール接続方法	9
5. ファームウェア更新手順フロー	11
6. 現在のファームウェアバージョンの確認	12
7. ファームウェア更新前作業	13
8. ファームウェア更新	15
9. ファームウェア更新後作業	20
10. 付録	22
10.1. リモートコンソール	22
10.1.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC) の使い方	22
10.1.1.1. コンソールの起動	22
10.1.1.2. 本体装置の電源制御方法	22
10.1.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方	24
10.1.2.1. コンソールの起動	24
10.1.2.2. 本体装置の電源制御方法	24

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部について、許可なく複製・転載・翻訳・他形式・メディアへの変換を行うことは、禁止されております。
2. 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成いたしました。が、万一お気づきの点や、ご不明の点がありましたら、弊社までご連絡ください。
4. 本書記載操作を行った結果の影響については、上記 3 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。
5. 本書は、本体装置の操作に熟知した管理者、または保守員向けに記載されております。本体装置の取り扱いや、各種 OS の操作、その他一般的かつ基本的な事柄につきましては記載を省いておりますので、あらかじめご了承ください。

© NEC Corporation 2025

日本電気株式会社の許可無く、本書の複製・改変などを行うことはできません。




1. 本書について

本書は、Express5800/R32Ba シリーズモデル製品向けの iLO6/iLO6 日本語パックをオフラインで更新するための手引きです。

対象製品 (本体装置)	Express5800/R32Ba-E2, R32Ba-E2 (2nd-Gen)
更新バージョン	iLO6 : 1.64
	iLO6 日本語パック : 1.63.11
更新作業時間	大凡 40 分 (1 本体装置あたり)

1.1. 本文中の記号について

本書では、下記 3 種類の記号を使用しています。
これらの記号と意味をご理解になり製品を正しくお取り扱いください。

	製品の取り扱いや、OS、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や、特に注意すべき点を示します。
	製品や OS、ソフトウェアを操作する上で、確認しておく必要がある点を示します。
	知っておくと役立つ情報や便利な事柄を示します。

また、本文中に掲載している画面イメージは一例であり、対象製品及び対象製品の構成等に依り若干異なる場合がありますが、操作する上で支障のない差異ですので、予めご承知おきください。

1.2. 注意事項

本書記載手順でのファームウェア更新に係る注意事項を記載します。


[注意事項 01]

本書記載手順でファームウェアを更新した場合、iLO6 の設定が変更される場合があります。
そこで、本書記載手順でファームウェアを更新する前に、これら設定をバックアップし、ファームウェアを更新した後、これら設定をリストアすることをお勧めします。
バックアップ及びリストア方法については、下記ガイドを参照してください。

- iLO6 の設定
→ 対象本体装置の iLO6 ユーザーズガイド

[注意事項 02]


本書記載手順でファームウェアを更新し、iLO6 の設定をリストアもしくは再設定した後、これら設定をバックアップしてください。



	何世代も前のファームウェア環境下でバックアップしたバックアップファイルが、新しいファームウェア環境下でリストアできなくなる場合があります。
---	---

2. 準備

本作業では、本体装置以外に下記物品が必要となりますので、予めご準備ください。

Table 2-1 必要となる物品

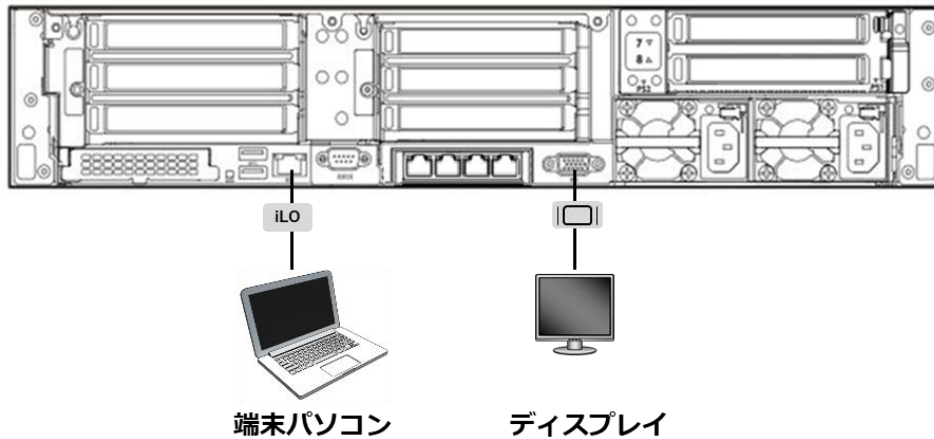
物品	数量	備考
端末パソコン	1	本体装置に接続し、本体装置を操作するために使用します。 <div> ご使用になるファームウェア更新モジュール(zip ファイル)を、予め当該端末パソコンのローカルディスクに収録し、圧縮解凍しておいてください。</div>
ディスプレイ	1	本体装置に接続し、本体装置の画面として使用します。
LAN ケーブル	1	本体装置と端末パソコンを接続するために使用します。

 ヒント	既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(iLO)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されており、且つ下記物品或いは情報をご存じである場合、前記< Table 2-1 必要となる物品 > は不要です。
	<div><ul style="list-style-type: none">- iLO Web インターフェースにアクセスする端末- iLO Web インターフェースの User Name と Password- iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレス</div> <div> ご使用になるファームウェア更新モジュール(zip ファイル)を、予め iLO Web インターフェースアクセス端末のローカルディスクに収録し、圧縮解凍しておいてください。</div>

3. 接続

ご準備頂いた物品を下図のとおり本体装置に接続します。

Figure 3-1 接続図 (R32Ba-E2、R32Ba-E2 (2nd-Gen)モデル)
本体装置 (背面)



端末パソコンと本体装置は、LAN ケーブルで直結させてください。



既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(iLO)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されている場合、そのままの接続環境で構いません。

4. 装置コンソール接続方法

本書記載のファームウェア更新手順では、本体装置に接続した端末パソコンから本体装置の iLO Web インターフェース及び本体装置のリモートコンソールに接続して更新作業を行います。

ここでは、iLO Web インターフェース接続方法、及びリモートコンソール接続方法を記載します。

4.1. iLO Web インターフェース接続方法

[step.a-01] iLO Web インターフェースへの接続情報の確認

A. iLO Web インターフェースの User Name と Password の確認

本体装置前面のスライドタグにある iLO ライセンスシール中に記載されている「User Name」と「Password」を控えます。



既に、iLO Web インターフェースの User Name と Password をご存じである場合、本作業は不要です。

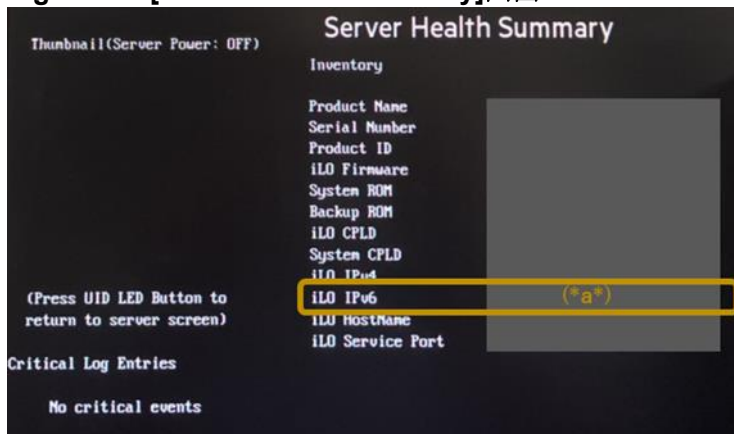






以降の作業で、この User Name と Password が必要になります。

B. iLO Web インターフェースの IP アドレス(IPv6)の確認

- ① 本体装置の電源コードをコンセントに取り付けます。
- ② **Server Health Summary** 画面をディスプレイに表示させます。
具体的には、前記①の後、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯していることを確認した上で、**UID** スイッチを押します。
そうすると、ディスプレイに下図画面が表示されますので、下図(*a*)箇所の「iLO IPv6」のアドレスを控えます。

Figure 4-1 [Server Health Summary]画面



 ヒント	既に、iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレスをご存じである場合、本作業は不要です。
 ヒント	IPv6 の仕様として、セクションが"0"で始まる場合、"0"を省略して表示しても良いことになっています。 そのため、表示される IPv6 アドレスの各セクションが 4 桁ではない場合があります。その際は、各セクションが 4 桁となるように、セクションの先頭に"0"を付加して控えてください。 (例) 表示値: fe80::9618:82ff:fe71:2b4 控え値: fe80::9618:82ff:fe71:02b4
 ヒント	前記①の後、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯していた場合、本体装置の電源が ON されています。 その場合は、POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF します (スタンバイ状態にします)。 本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。
 ヒント	以降の作業で、この IPv6 アドレスが必要になります。

[step.a-02] iLO Web インターフェースへの接続とログイン

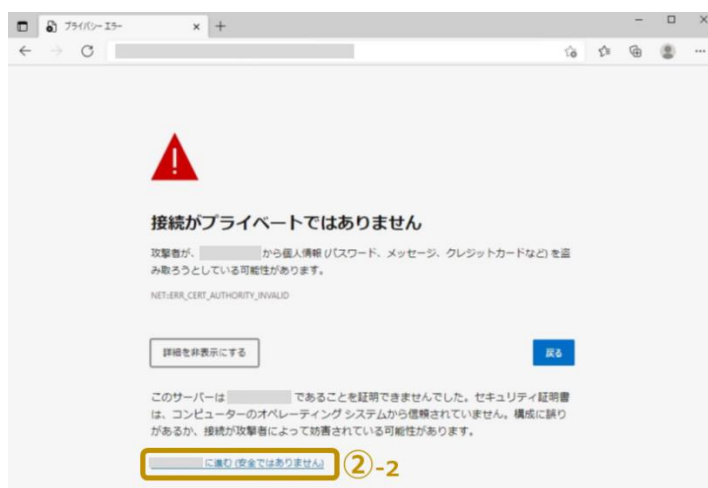
A. iLO Web インターフェースへの接続

- ① 端末パソコンにて Web ブラウザ(Microsoft Edge 等)を起動し、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの IP アドレスをアドレスバー (①) に入力します。

例) [https://\[abcd::efgh:ijklmnop:qrst\]/](https://[abcd::efgh:ijklmnop:qrst]/)

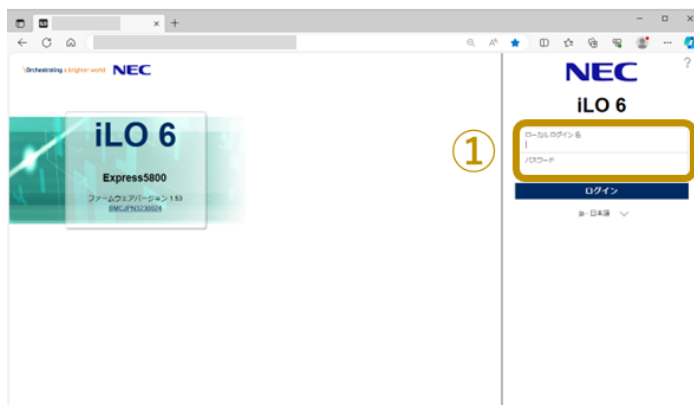


- ② セキュリティ警告が表示された場合は、上記画面の「詳細情報」(②-1)をクリックします。そうすると、下記画面表示になりますので、「xxxx に進む (安全ではありません)」(②-2)をクリックしてください。

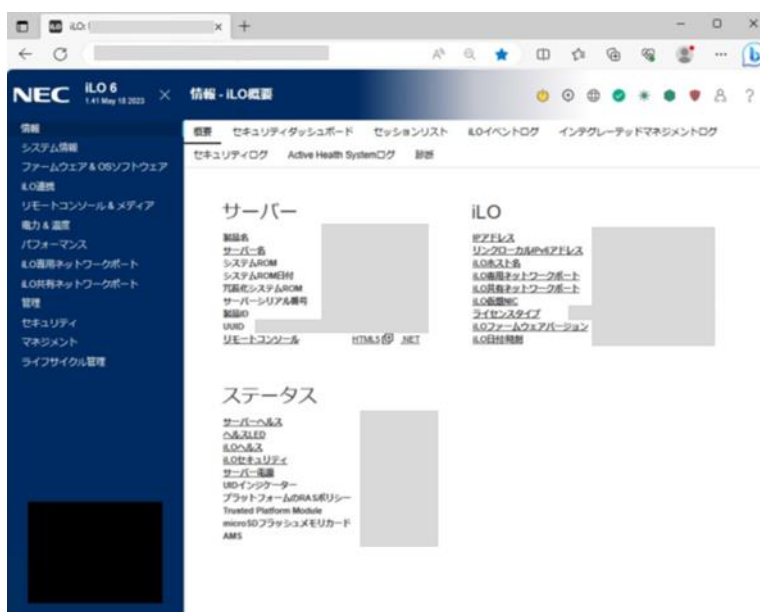


B. iLO Web インターフェースへのログイン

iLO Web インターフェースに接続できると下記画面が表示されますので、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの **User Name** と **Password** を①箇所に入力し、「ログイン」ボタンを押します。



ログインに成功すると、下記画面に切り替わります。



4.2. リモートコンソール接続方法

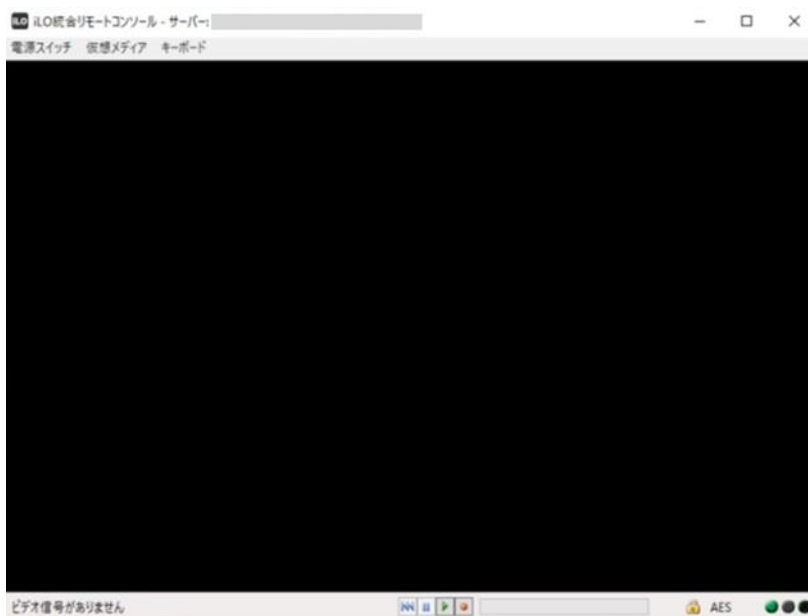
[step.b-01] リモートコンソールの起動


iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[.NET リモートコンソール]



 <p>ヒント</p>	<p>「.NET リモートコンソール」が起動しない場合、下記何れかの対処を行ってください。</p> <p>[対処 A]</p> <p>「iLO6 ユーザーズガイド」を参照して、.NET リモートコンソール(.NET IRC)に係る要件、トラブルシューティング等を確認し、端末パソコン及び端末パソコン上で起動している web</p>
--	---

	<p>ブラウザを適切に設定する。</p> <p>[対処 B]</p> <p>Microsoft Edge にて iLO Web インターフェースに接続している場合、Microsoft Edge を下記の通り設定し、Microsoft Edge を再起動させた後、再度 iLO Web インターフェースに接続する。</p> <div><ol style="list-style-type: none">1. ブラウザで以下に移動する。 edge://settings/content/insecureContent2. [許可]において、[追加]をクリックする。[サイトの追加]ダイアログが開きます。3. [サイトの追加]ダイアログに、iLO Web インターフェースの IP アドレスを入力し、[追加]をクリックする。 (IPv6 アドレス入力例) [aaaa::bbbb:cccc:dddd:eeee]</div> <p>[対処 C]</p> <p>Microsoft Edge(IE モード)にて、iLO Web インターフェースに接続する。</p> <p>[対処 D]</p> <p>「HTML5 統合リモートコンソール」を起動させてください。 これらリモートコンソールの起動方法は、＜10.1 リモートコンソール＞を参照ください。</p>
--	---

5. ファームウェア更新手順フロー

本体装置にインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。




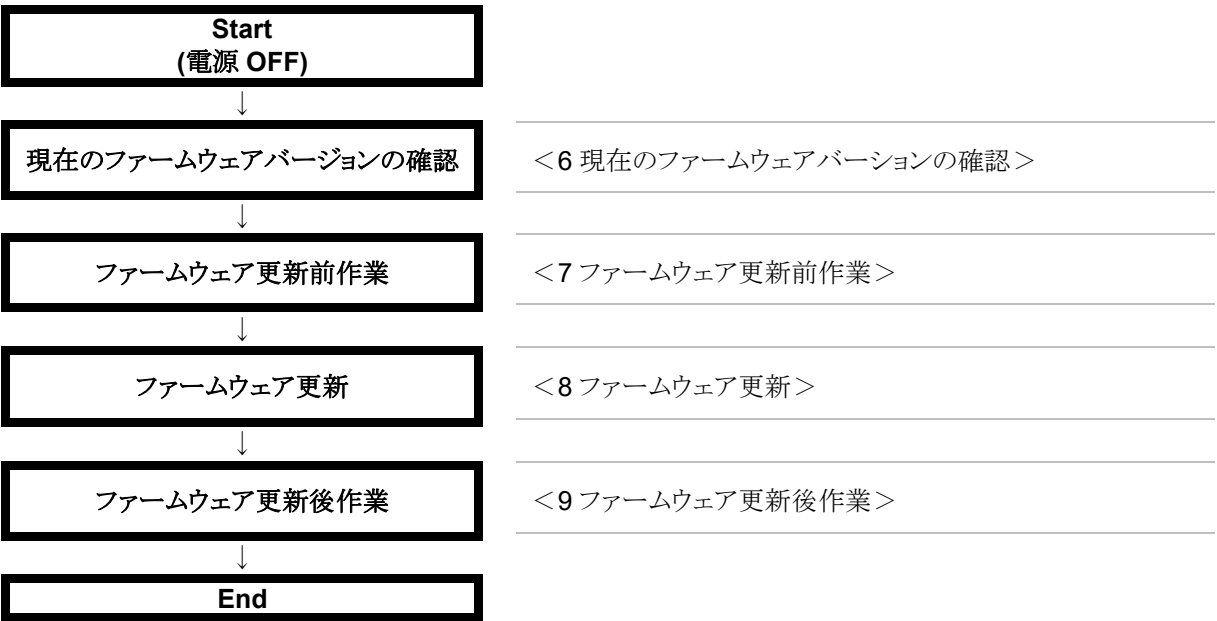
 重要	本作業を行う前に、本体装置の電源が OFF になっていることを確認してください。 具体的には、本体装置正面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認してください。 もし、本体装置の電源が ON されているならば、本体装置の電源を OFF してください。
 ヒント	本体装置の電源状態は、装置前面の POWER ランプで確認できます。 電源 OFF 状態ですと、 POWER ランプがアンバー色に点灯します。 電源 ON 状態ですと、 POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。
 ヒント	POWER ランプが消灯している場合、電源コードがコンセント或いは本体装置から外れている可能性がありますので、ご確認ください。

Figure 5-1 ファームウェア更新手順フロー



6. 現在のファームウェアバージョンの確認

下記手順に従って、今現在、本体装置にインストールされているファームウェアバージョンを確認し、下記＜Table 6-1 ファームウェアバージョン表＞の「現在のバージョン」欄に記載します。

Table 6-1 ファームウェアバージョン表

ファームウェア名	現在のバージョン	更新バージョン	更新要否
iLO6 ファームウェア		1.64 Oct 08 2024	
iLO6 日本語パック		1.63.11	

現在のファームウェアバージョンが、[上表「更新バージョン」欄記載バージョン未満](#)である場合、ファームウェア更新が必要です。

上表記載の全てのファームウェアが更新不要であるならば、以上で、ファームウェア更新作業は終了です。

更新必要なファームウェアが1つ以上あるならば、＜7 ファームウェア更新前作業＞以降の作業に進みます。

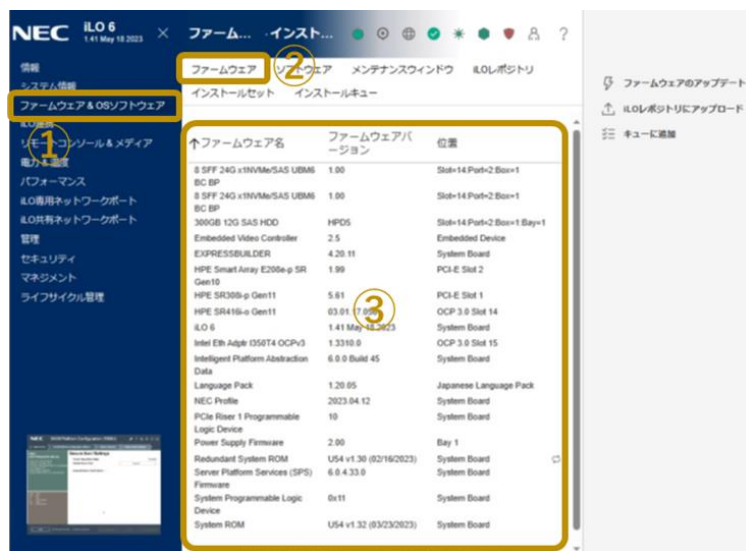
[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記＜4.1iLO Web インターフェース接続方法＞を参照してください。

[step.1-02] ファームウェアバージョンの確認

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & ソフトウェア」(①)をクリックし、「ファームウェア」タブ(②)をクリックします。



そして、上図③箇所を参照して、今現在、本体装置にインストールされているファームウェアのバージョンを確認し、前記＜Table 6-1 ファームウェアバージョン表＞に記載します。

確認対象ファームウェアは下表の通りです。

ファームウェア名
iLO6
Language Pack

7. ファームウェア更新前作業

ファームウェア更新を行う前に実施しなければならない作業を記載します。

[step.2-01] TPM の設定変更

本書記載ファームウェア更新手順は、Trusted Platform Module(TPM)に対応しておりません。

TPM は標準搭載されていますので、下記操作を行って、一旦、「TPM Visibility」を[Hidden]に変更します。

[TPM Visibility 設定変更方法]

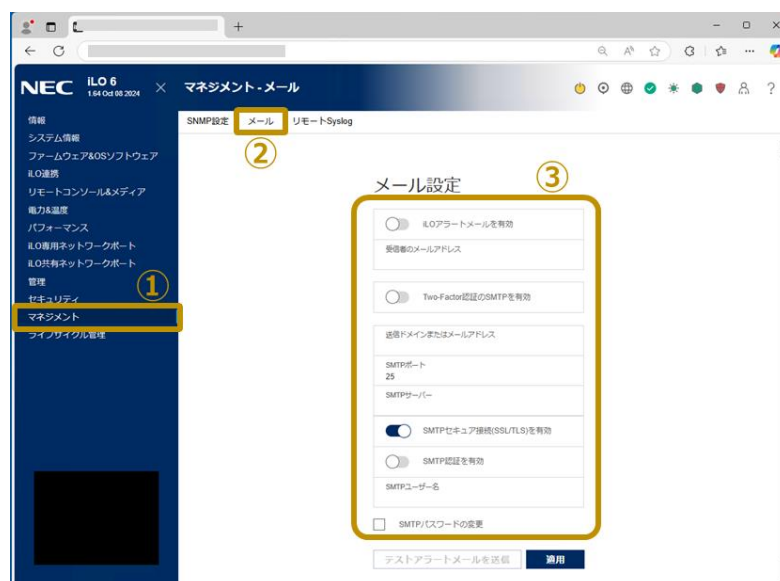
01. 対象本体装置の電源を ON し、POST 起動中(Function Key 案内表示後)に<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
02. System Utilities において、{System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Advanced Security Options}へと進み、「Platform Certificate Support」の現設定値を控えた上で、[Disabled]に変更します。
03. <Esc>キーを数回押下し、Server Security 画面まで戻り、{Trusted Platform Module Options → Advanced Trusted Platform Module Options}へと進み、「TPM Visibility」の現設定値を控えた上で、[Hidden]に変更します。
04. <F10>(Save)キーを押下します。
05. <Esc>キーを数回押下し、System Utilities トップ画面まで戻り、『Reboot the System』を選択し、対象本体装置を再起動します。

[step.2-02] iLO アラートメール設定の記録

iLO ファームウェアの更新に伴い、iLO アラートメール設定が変更されるかもしれませんので、事前に、現在の設定値を控えておきます。

A. iLO アラートメール設定ページの表示

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「マネジメント」(①)をクリックし、「メール」タブ(②)をクリックします。






B. iLO アラートメール設定の記録

上図③箇所の下表設定項目の設定値を記録しておきます。

設定項目	設定値
iLO アラートメールを有効	
受信者のメールアドレス	
送信ドメインまたはメールアドレス	
SMTP ポート	
SMTP サーバー	
SMTP セキュア接続(SSL/TLS)を有効	
SMTP 認証を有効	
SMTP ユーザー名	

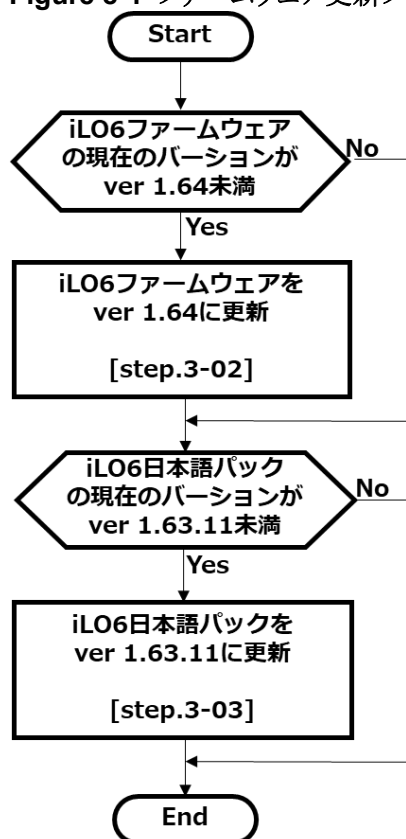
8. ファームウェア更新

本体装置にインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。

	<p>本作業を行う前に、本体装置の電源が OFF になっていることを確認してください。 具体的には、本体装置正面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認してください。</p> <p>もし、本体装置の電源が ON されているならば、本体装置の電源を OFF してください。</p>
	<p>本体装置の電源状態は、装置前面の POWER ランプで確認できます。 電源 OFF 状態ですと、POWER ランプがアンバー色に点灯します。 電源 ON 状態ですと、POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。</p>
	<p>POWER ランプが消灯している場合、電源コードがコンセント或いは本体装置から外れている可能性がありますので、ご確認ください。</p>

下図は、ファームウェア更新フローの概要を表したものです。

Figure 8-1 ファームウェア更新フロー (概要)



[step.3-01] iLO Web インターフェースへの接続とログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記＜4.1iLO Web インターフェース接続方法＞を参照してください。

[step.3-02] ファームウェア更新 (iLO6 ファームウェア更新)

A. ファームウェア更新ページの表示

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、画面右側の「ファームウェアのアップデート」(②)をクリックします。



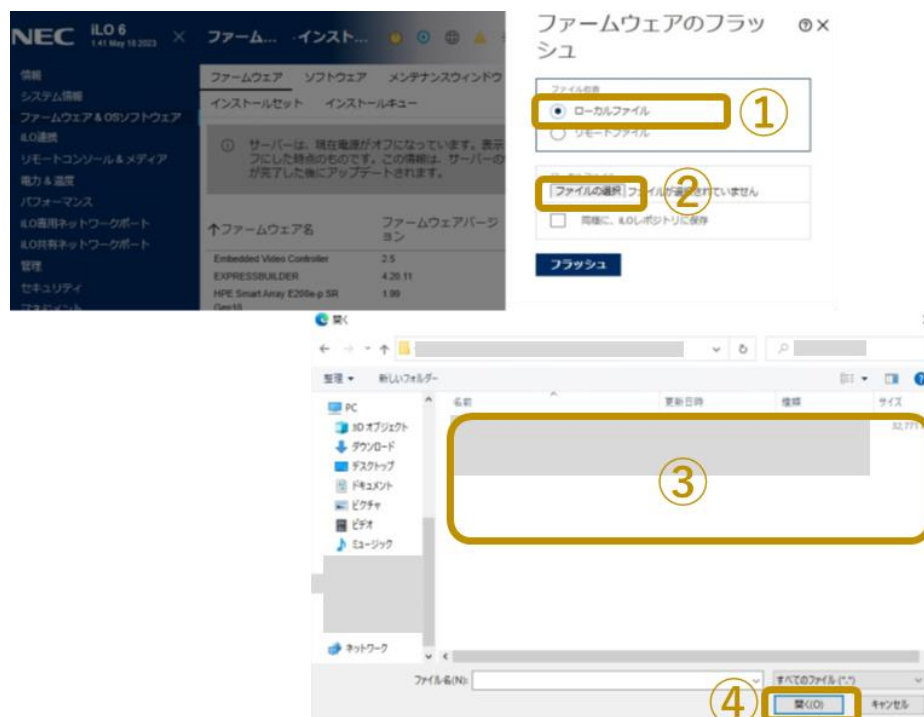
B. ファームウェア更新ファイルの選択

iLO Web インターフェースの「フラッシュファームウェア」フレームにおいて、「ファイル位置」アイテムの「ローカルファイル」(①)を選択し、「ローカルファイル」アイテムの「ファイルの選択」ボタン(②)をクリックします。

そして、ポップアップ表示された「開く」ダイアログにて、予め端末パソコン内に収録及び圧縮解凍したファームウェア更新モジュール内の

“GZZ-032089-001¥bin” フォルダ配下に在る下記ファイルを選択し(③)、「開く(O)」ボタン(④)をクリックします。

ファームウェア	ファームウェア更新ファイル
iLO6 ファームウェア	ilo6_164.bin




C. ファームウェア更新(フラッシュ)

「ローカルファイル」アイテム(①)に選択したファイルが表示されていることを確認した上で、「フラッシュ」ボタン(②)をクリックします。

もし警告メッセージが表示されたならば、「OK」ボタン(③)をクリックします。





ヒント

もし下記注意メッセージが表示されたならば、「TPM の無効」(a)にチェックを入れた上で、「フラッシュ」ボタン(b)をクリックしてください。


注意: データを失うリスクがあるため、インストールされたTPMまたはTMを使用しているソフトウェアをサスペンドするか、バックアップしてください。続行するには、[TPMの無効]チェックボックスを選択します。

☒ TPMの無効

a


フラッシュ

b



ヒント

ファームウェア更新が開始されると、その旨が下図 A 箇所に表示されます。



ヒント

ファームウェアの更新時間は、大凡 5 分くらいです。



重要 ファームウェアを更新すると、更新完了後、自動的に iLO がリセットされ、iLO Web インターフェイス画面がログイン画面に切り替わりますので、再度 iLO Web インターフェイスにログインしてください。



[step.3-03] ファームウェア更新 (Language Pack)

前記<[step.3-02] ファームウェア更新 (iLO6 ファームウェア更新)>と同じ操作を実施します。

但し、「B. ファームウェア更新ファイルの選択」にて選択するファームウェア更新ファイルは、下記ファイルです。

ファームウェア	ファームウェア更新ファイル
Language Pack	lang_ja_163.lpk

重要 Language Pack を更新すると、更新完了後、自動的に iLO がリセットされ、iLO Web インターフェイス画面がログイン画面に切り替わりますので、再度 iLO Web インターフェイスにログインしてください。

[step.3-04] 本体装置 電源 ON/OFF

ファームウェア更新を適切にデバイスに反映させるために、本体装置を {AC OFF → AC ON} させます。

A. 本体装置の AC OFF

本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認した後、本体装置の全ての電源コードを本体装置から抜き AC OFF してください。


ヒント 本体装置が電源 OFF だと、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯します。電源 ON だと、POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。

B. 本体装置の AC ON

本体装置を AC OFF した後、30 秒以上経過後に、本体装置の全ての電源コードを本体装置に差し込み AC ON させてください。

そして、本体装置が AC ON 完了するまで待合せます。

具体的には、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯するまで待合せます。

	<p>本体装置に依っては、AC-Link 機能が有効となっており、AC ON に連動して電源 ON される場合があります。</p> <p>電源 ON された場合は、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。</p> <p>電源 ON されてしまった場合には、本体装置前面の POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置を電源 OFF してください。</p>
---	--

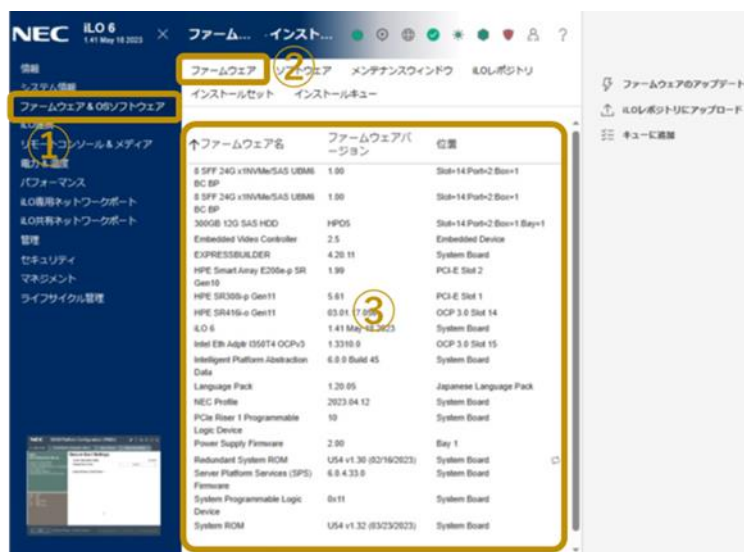
[step.3-05] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<4.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.3-06] 更新後ファームウェアバージョンの確認

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & ソフトウェア」(①)をクリックし、「ファームウェア」タブ(②)をクリックします。



そして、上図③箇所を参照して、下表記載のファームウェアが下表記載のバージョンになっていることを確認します。

ファームウェア名	更新バージョン
iLO6	1.64 Oct 08 2024
Language Pack	1.63.11

以上で、一連のファームウェア更新作業は終了です。

9. ファームウェア更新後作業

ファームウェア更新を行った後に実施しなければならない作業を記載します。

[step.4-01] TPM の設定変更

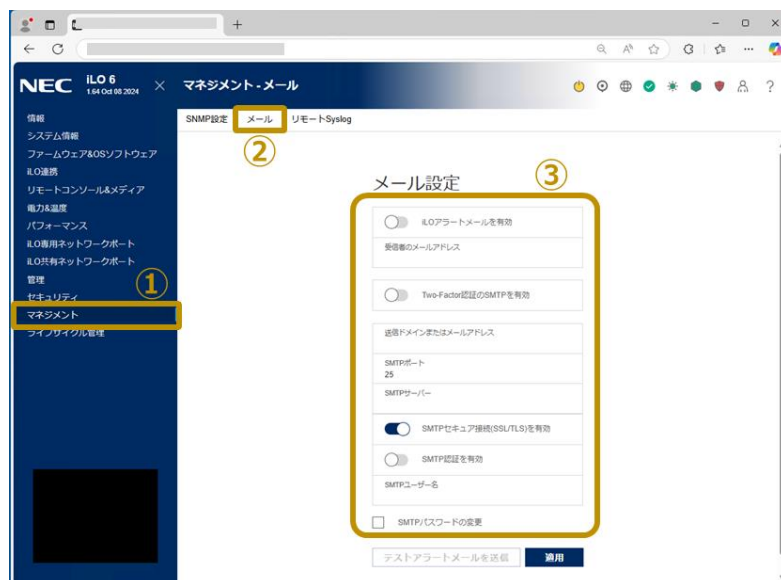
前記<7 ファームウェア更新前作業>の<[step.2-01] TPM の設定変更>で設定値を変更した場合には、「TPM Visibility」と「Platform Certificate Support」を元の設定値に戻してください。

[step.4-01] iLO アラートメール設定の確認

iLO アラートメール設定が引き継がれているかを確認します。

A. iLO アラートメール設定ページの表示

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「マネジメント」(①)をクリックし、「アラートメール」タブ(②)をクリックします。



B. iLO アラートメール設定の確認

上図③箇所の設定項目の設定値が、前記<7 ファームウェア更新前作業>の<[step.2-02] iLO アラートメール設定の記録>で記録した設定値になっているか否かを確認します。

もし、異なる設定値であったならば、記録しておいた設定値に設定し直してください。

[step.4-02] タイムゾーン設定の確認

iLO のタイムゾーンが適切に設定されているかを確認します。

A. iLO SNTP ページの表示


iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「iLO 専用ネットワークポート」(①)をクリックし、「SNTP」タブ(②)をクリックします。



B. iLO タイムゾーン設定の確認

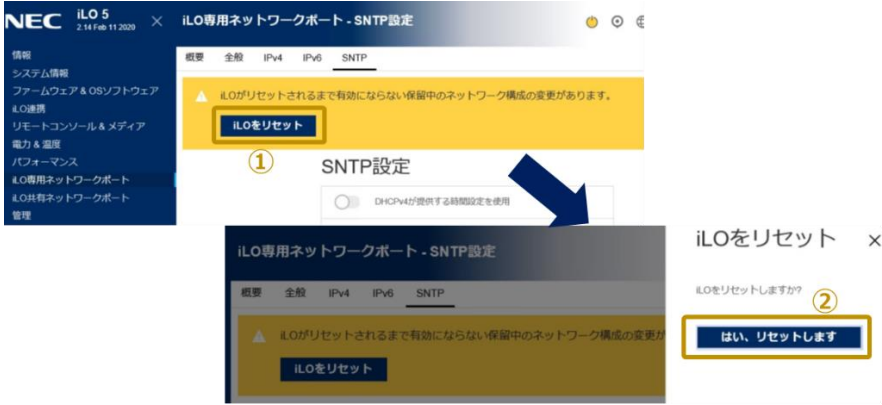
上図「タイムゾーン」項目(③)に適切なタイムゾーンが設定されていることを確認します。
日本のタイムゾーンは、「Osaka, Sapporo, Tokyo, Seoul, Yakutsk (GMT +09:00:00)」です。

もし、不適切なタイムゾーンに設定されている場合は、適切なタイムゾーンに設定し直してください。



ヒント

タイムゾーン設定を変更すると、iLO リセットを要求されますので、iLO をリセットしてください。



iLO をリセットすると、iLO Web インターフェイス画面がログイン画面に切り替わりますので、再度 iLO Web インターフェイスにログインしてください。

以上で、一連のファームウェア更新作業は終了です。

10. 付録

10.1. リモートコンソール

10.1.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC)の使い方

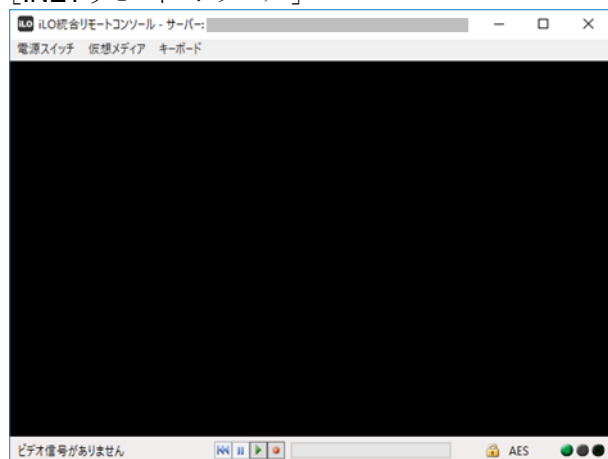
10.1.1.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

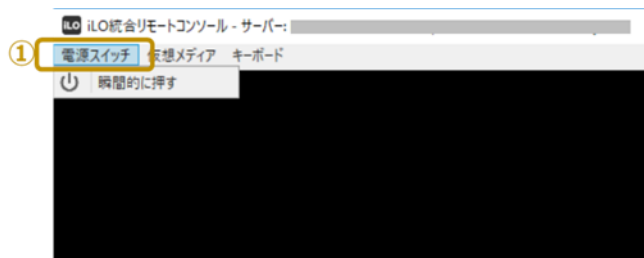
[.NET リモートコンソール]



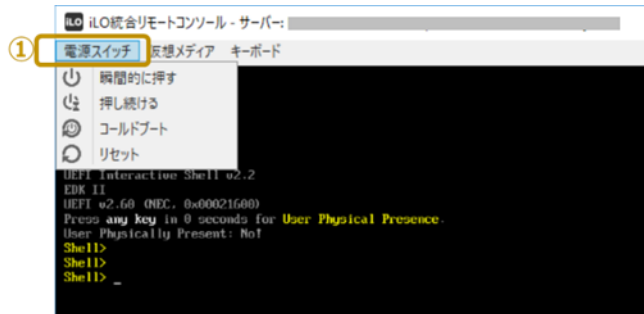
10.1.1.2. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの[電源スイッチ]をクリックすると、電源操作メニューが表示されます。表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

10.1.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方

10.1.2.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「HTML5 統合リモートコンソール」セクション配下の「新規ウィンドウ」ボタン(③)をクリックします。



HTML5 リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[HTML5 リモートコンソール]



10.1.2.2. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの [電源] をクリックし「電源」を選択すると電源操作メニューが表示されます。表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

NEC Express5800 シリーズ

Express5800/R32Ba シリーズモデル

ファームウェア更新ガイド

(iLO6: 1.64

iLO6 日本語パック:1.63.11)

2025 年 3 月 第 1 版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号

TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします。

© NEC Corporation 2025

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。